

件名	H29 第 3 回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会記録		
日時	2017 年 7 月 27 日(木)18:30~20:00		
場所	湯梨浜町中央公民館泊分館 2 階大会議室		
出席者	(委員 7 名) 遠藤公章、石沼友、石本義之、鷺野星夫、渡邊由佳、田嶋昭彦、 (敬称略) 朝日田卓朗 (オブザーバー) ・ 区長 7 名 筒地区長、泊 2 区長、泊 4 区長、泊 5 区長、港区長、園区長、宇谷区長 ・ 県中部総合事務所地域振興局 栃本リーダー、久保田係長 ・ 地域おこし協力隊 辺 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事 計 20 名		
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	協議会レジュメ、住民説明会結果概要、議事録、湯梨浜町内での移動販売状況、公共交通機関関連資料		
<p>(会長)各地域での住民説明会に同行頂きありがとうございました。区長の皆さまもお声かけいただきありがとうございました。</p> <p>私自身の説明不足もあったし、意見集約も慣れていなかった部分もあるが、今後も住民の方からご意見をいただきながら進めたい。実際に住民説明会へ出席して聞いたことや、住民説明会で得られた住民からの意見を事務局でまとめたものを参考に、皆さんの意見を聞きたい。意見集約と共有をして次のステップにいきたい。</p> <p>(委員)半分弱くらいの地域を回り、貴重な意見をいただいた。店舗についてはやはり泊地域に設置して経営は大丈夫か、という意見が多かった。泊 1・2 区はまだ商店があり、集落内で賄っていた部分があるが、商店がないエリアでは羽合地域、倉吉市などで買い物をしなくてはいけない状況。今更泊地域に設置して買い物に行けるだろうか、という考えがあります。波多マーケットのようにどこまで行政が支援できるのか。店舗確保はできても、人件費はみてもらえるのか。移動販売車を設置する場合にも出してもらえるのか、人件費はみてもらえるのか。あるいは、移送化、コミュニティバスは行政にしてもらえるのか。というところが、まだ話を詰められていないなど感じた。泊 3・4 区の意見で、石脇区にあった店舗が 3 年～3 年半で無くなったという話があったが、それ以前にあった生協の店舗がなくなってから、H19 年に店舗を構え(有志による共同出資・管理運営は 1 人で実施)H25 年まで約 6 年運営された。石脇は 362 人(106 世帯)で、波多地区と同じような人口規模だったが、来られる客が高齢者と子供だけだったということで行き詰ってしまったという例があるので、店舗についてはより明確に利益が出る方法を考える必要があると思った。</p> <p>(委員)宇谷区に出席したが、店舗を設けるとしても誰が運営するのかということが最後まで残ってくると思う。泊地域の中でも宇谷区は離れていて羽合地域に買い物に行っている。ただ、参加された方の中には高齢者は現時点で買い物に困っていたり、今後のことを心配されている方も多かった。店舗は泊区・園区だけで収益が上がることを考えて、他の地域には移動販売をしてはどうか。泊区に店舗を構えるのであれば他の地区は選択になるため集客するために魅力が必要だと思う。</p> <p>(委員)買い物は移動販売の方が受け入れてくれる人が多いのかなと感じた。店を構えると、周辺エリアだけになるので、各区平等にするためには移動販売の方が好まれるのかなと感じた。どの方法でも</p>			

不満はでるが、移動販売の方が、スムーズに着地できると感じた。

(委員)2回出席したが、感触としては移動販売のニーズが強い印象を受けた。若者は危機感が少ないのかなと感じた。拠点という意味で、石脇区の人でも候補1の声が多かった印象がある。筒地地区の人はコープの方がいいという意見があるし、原区・宇谷区については、どこも候補がないという印象がある。インターチェンジという意見も出ていて、外部や若者を呼び込むという点であればいいのでは、という意見があったが、やはり住民サービス役場機能というのであれば、拠点は候補1あたりが妥当なのかなと感じた。ドローン基地の話や、小学校の差別化の話もあったので、問題意識をもった住民の思いを知れてよかった。

(委員)思っていることが皆さん同じだなと感じた。宇谷区の方は羽合地域に買い物に行ってしまうと、泊地区にできたとしても行かないという意見には驚いた。インターチェンジの場所もいいという意見もあったのも新しい意見だと感じた。

(委員)港区しかでていないが、やはり港区の近くがいいという声があった。店舗があれば活用するのではないかという声もあった。他の地区のことを考えると、どうしても車がないと店舗に行けない場合をどうフォローするか、そこを厚くフォローしなくてはいけないと感じた。それができれば場所はどこでも大丈夫で、店舗と移動販売の両輪で出来ればいいかなと感じた。

(会長)数字としては165名が説明会に来られた。全体の1割にも満たない(約6.5%)人数しか来なかった。印象として、あまり困っていないのだろうと感じた。説明会に来られているのは困っている方で、若い世代への周知の時間がなかったことと、買い物に困っていない人が多いと感じた。高齢者の方でも同居している場合には、困っていないという意見もあり、まだ現実味として考える状況に至っていないと感じた。拠点としては役場機能と公民館機能を集約することについて反対意見はないが、店舗に関しては運営していくのはハードルが高く、民間と行政の役割分担、費用負担の課題が出てくるのかなと感じた。宇谷区、原区の方は車に乗れるなら羽合地域に行くのは、正直なところだし、全体をケアするのは難しい。どこで線引きをするか、議論を深めないといけないと感じた。

(区長)区によって立地があるので、意見が違おうと思うが、私のあ区の場合には現実には、買い物にしても病院にしても全部羽合方面で、泊地区の方向に行くという意識は現実的でない。羽合地域・倉吉市に行くだろうし、現実、たぶんそれほど困っている人がいないんだと思う。60代、70代であれば自分で車を運転して出られる、その上の年代は、知人、親戚に買い物、病院を頼むことが出来るということだと思う。最近では高齢者の人が救急車を呼ぶ機会が増えている。それでも10年～15年先どうなるのかというイメージが湧き辛いんだと思う。車は運転できなくなり、外出しづらくなり、でも医者、病院に行かなくてはならなくなると思うが、イメージしづらい。

ただ、移動販売に来てもらえたらありがたいなと思う。今はほとんど来ていない。魚類の移動販売もたまに来てはいるが、昔(週に半分くらい来ていた)ほどは来ていない。今はほとんど来ないので羽合地域に出かけている。私の区の場合、世帯数はそれほど減っていない。外からの移住もある。三世代同居もまだある。ただし、こども園の園児は激減している。

(区長)なかなか難しい。店舗を作るにしても難しいと思うので、移動販売が良いと思う。私の区には、今も移動販売が来ている。また、車や列車で買い物に出かけているので、あまり困っていない。

(区長)若い世代が多いので、危機的な状況をリアルに感じられていないと思うが、やはり店があればいいという思いは皆ある。特に子供たちが行ける店など。また、家を建てたくても建てる場所がないという声があった。

(区長)今、若い人たちがそこそこいて、買い物にはとりあえず不自由がないが、それが5年～10年たった時には遅い。今から対策をすすめておかないと、このままただらするのはいくれない。店舗をおいて、移動販売をしたり、巡回バスなどで買い物に行けるようにしてはどうかと思う。

(区長)私の地区では、全体は10世帯。そのうち車に乗れない世帯が1世帯。実際困っているかと言えば

困っていない、今はなんとかなるが先々どうするのかということになる。移動販売が私の区にはないので、来てもらえたら便利だなと思う。隣の鳥取市の地区には週に何回か移動販売が来ているようだ。

(区長)移動販売は、野菜と魚類が定期的に来ている。お年寄りには小さな拠点（買い物と拠点候補）の説明をしたが、なかなか難しい。小さな拠点の意味が広すぎる。36世帯があり、高齢者から質問されて説明もするが幅が広すぎておおざっぱな説明になってしまう。高齢者にも関心をもってもらわないといけない。今は、なんとかなっている。車に乗れない人は、JRで買い物に出かけている。現実問題として、買い物できない人はほとんどいない。

(会長)自分事として考えていないとわかりにくい内容だと思う。

(区長)宅地造成は、新たな人と今住んでいる人の線引きが必要。造成は、泊地区周辺はコストがかかるので、原区のあたりがよいという意見があった。買い物は移動販売も当然必要だが、店舗を構えて移動販売をセットにしてはどうか。ただ、資金をどう集めるかと言えば行政がひとつ、住民が出し合うのもひとつになると思う。拠点の場所については、店舗だけなら候補1の漁港周辺の方がいいと思うが、行政機能を合わせると、候補3を再整備した方がいいと思う。そのあたりを縦割りで整理した方がよいと思う。

(事務局)拠点やどこかに店舗を構えるだけではなく、移動販売を設ける必要があるという意見が多かった。現在の町内の移動販売の状況を資料で添付した(資料参照)。海側と東郷地域の奥の方は移動販売が充実していることが分かるが、東郷地域の市街地、舎人地区、泊地域でいえば筒地地区、宇谷区辺りが少ないかなと思われる。移動販売をしている事業者に移動販売場所の拡大の可能性について聞いたところ、そもそも各場所で2・3人の利用しかないのが難しいという声があった。中には高齢化によって移動販売を辞めるかどうかと迷っている部分があるようだった。

バスの利用状況も添付しているが、石脇倉庫～松崎・北方線では1日あたり1.7～8.3人と利用状況がとても少ない。このまま続けば路線自体がなくなる可能性がある。バス停までの距離を見ると、例えば筒地地区だと1~2kmの距離があり、バス停までの移動手段を考えなくてはならない。買い物だけでなく病院に行くことも考えると移動手段を考えなくてはならないと思う。免許証を返納した後にはどうやって生活するのかを検討する必要がある。

店舗等を継続させるためには、地元の方の熱意が必要で、どう持ってもらおうかというところが重要だと感じた。

(事務局)まだまだ現実的には車などで買い物に出られるので、店舗を設置してほしい、という意見は少ない。店舗を設置するとなれば地元の方がどれだけ使うのかということ話し合っていた。地元の方が使わなければ維持は出来なくなる。移動販売という意見がどの区でもほぼ出ていたので、皆さんで話し合っただけで方向性を決めていただきたい。「拠点」＝「お店」の印象が強く、役場機能、公民館機能の印象がまだ薄いようだ。そうはいつでも役場の方も公共施設は老朽化で何とかしてはいけない。泊地域の人口がどんどん減ってきているので、なんとかするなら今のタイミングで、何らかのてこ入れをしなくてはならないと思うし、国が地方創生で有利な財源がある時にしなくてはならないのかなと感じる。

(事務局)移動販売の意見が多かったことに驚いた。困っている方が説明会に出てきていて、家のそばまでに来てもらうことがいいという意見になるのかなと思った。今住んでいる人にとっては移動販売が大事だと思うが、これから泊地域に住もうとしている人や外から人を呼ぶには移動販売では定着が難しいかなと思う。海の駅とまり協議会とも連携して、外から見ても魅力的な拠点、店舗ができれば買い物に来てもらえるのではないかなと思った。

(会長)今回がラストチャンスではないかと感じておられる方は過去の過疎対策などを知っている一部の方しかいない。危機感を伝える取り組みを考えなくてはならない。

(オガザバー)移動販売の話が多かったが、役場機能を集約するという点に重点をおいた方が、話がスムーズかなと思った。移動販売だと経営的に難しいと聞いている。拠点があっての移動販売だと思う。移動方法をどうするかも考えた方が幅も広がると思う。

(オガザバー)全般的に、「移動」がポイントで、物と人の移動を関連付ながら考えられたらと思う。ある移動販売の事業者は客が少なくて困っていると聞いているし、御用聞き的なこともされている。それぞれの区ごとに拠点となりうる場所があって、そこで曜日を決めて何かをする。そこに移動販売が来るというのがいいかなと思う。移動販売だけで成り立たせることは難しいので、拠点がなくて、役場機能があって、店舗については簡単な品揃えにして、各区の拠点からの移動を促すことで維持できるのではないかな。

(オガザバー)移動販売は、かなりの割合で赤字であるという調査報告がある。継続については、事務局の話にもあったが、地域の方がいかに自分たちの店舗だと感じるかが大切だ。

■拠点にどんな機能を持たせるか。誰のために。

- ・役場：各種証明、各課窓口
- ・公民館：事務局機能、活動スペース
- ・店舗：買い物機能

(委員)公民館が地区ごとにあるが、それとこの中央公民館はどう違うのか。

(会長)中央公民館は、広域の地区で行う行事などで活用している。

(委員)中央公民館は、各サークル活動やにぎわい事業なども企画している。公民館祭りやイベントを考えるのも中央公民館。

(事務局)各区の公民館は区ごとのコミュニティだが、中央公民館泊分館は旧泊村の区をまたぐ活動を支援している。

(区長)いろんな意見が集まって悩んでいると思うが、今、何を対象にしているのかが分からない。以前は新しい人を入れたいことにプラスして高齢者に対してどうするかだったが、以前よりも高齢者中心に考えているように思う。若い人からすると興味がないと思うので、引っ越してこようということにはならない。

(会長)どういう機能を誰のためにする必要があるのか、ということをもとめなくてはいけない。まず拠点の機能を整理して、誰のためにということ整理する。

(区長)店一つにしても経営していかななくてはいけないので、中途半端なものを作っても潰れてしまう。多く買い物をするのは若い世代。店は若い世代をターゲットにしないと、結局維持できなくなり住民に還元することが出来ないと思う。

(会長)①機能、②誰のために、という順番で検討を進めていく。

(委員)協議会としては、小さな拠点をつくることを協議することがメインだが、それ以外の部分（住民を増やす）も考えるというイメージ。人口を増やすということは、泊地域では外せない課題。泊地域に合った小さな拠点づくりを進めれば良いと思う。

(会長)議論をするなかで、色んなところに枝がのびて分りにくくなっているのでもう一度整理して絞っていく必要がある。拠点をメインに考えて、人口を増やす方法はプラスの部分という認識。

(委員)小さな拠点をつくることと移住定住の2本立てで進めてきたと思う。公共施設なり店舗を一カ所にまとめて生活弱者の利便性をよくすることだと認識している。老朽化したものを見直すタイミングで、生活弱者と言えば高齢者だと思うので、高齢者のセーフティネットを考えることがまず一つだと思う。人口を減らさないという点では民間ではむずかしいので行政に宅地造成、公営住宅などをお願いしていくことだと考えている。

(委員)役場機能、公民館機能、買い物機能をまとめたものをつくと決めてしまえばよいと思う。今現

在は、それが高齢者に対する支援だけれども、町外から住もうという人が自分の将来を考えた時に「こういういい施設があるなら、ここに住もうか」と思うことも含めて、施設をつくと決めてよいと思う。

(委員)住むからにはその先も見えていいと思う。

(委員)行政が入るからには、福祉的な視点が入ると思う。生活に困っている人に福祉的な視点を考える。

2030年問題に備えて、やっていく。

(委員)拠点だけの話でいえば、一つに集約するために、財源があるうちにすればいいと思う。店舗も中途半端なものはどうかなと思う。一方で泊地域にはコンビニ、ガソリンスタンドもないので買い物は切実な問題だと思う。店舗の運営まで協議会が考えるとなると、とても難しいと思う。

(会長)協議会が運営しなくてはいけないというわけではないが、どういう運営方法かをある程度提言までしたい。費用、人件費など。

(委員)限られた時間なので、行政機能はこうあるべき。それに付随して店舗の場所がここにあればよいのではないか。というように店舗は切り離して考えた方がよいのではないか。

(事務局)今年中に方向性を提案いただきたい。説明会で得られた意見などから、再度練り直していただいてから、また説明会をする機会があればと思う。

(会長)店舗運営の方法まで考えて、次の住民説明会をやった方がいいか。

(事務局)皆さんが「店舗があった方がいいか」と聞かれると、「あったほうがいい」と回答すると思います。住民が自分のこととして考えてもらうというところまで話し合っただけだったらと思う。

(会長)移住、宅地造成の部分は、別として提言するとして、機能を3つ(役場・公民館・店舗)に絞って進めていくということでもいいと思う。個人的には3つまとまった方がいいと思う。

(区長)宅地造成もいいが、それよりも店舗(コンビニ)と役場機能が今現在の泊庁舎のなかにあって、そこを拠点として移動販売するという方向になったらいいと思う。自分の目で見て買うことを望まれる方が多い。

(会長)協議会としては、新しい庁舎を作ってはどうかという方向で検討している。

(区長)公民館の体育館はどうなるのか。

(会長)体育館はそのまま残す予定。

(区長)既存施設を改修する方向にはならないのか。

(会長)改修費用が高くかかるので、これから長く使うなら撤去して新しいものを新設するほうが効率的だという話になった。今の生活スタイルにあったサイズでつくる。

(区長)補助金でその費用もでるのか。

(会長)もちろん自前でつくることは難しく、役場で資金調達方法を探してきてもらう。10~20年後に取り組むとなるととても難しい。漁村センターについても地元の区で利用しないか投げかけたことがあるが、手が挙がらなかった。

(ワザバー)店舗についてだが、移動販売や物流の話もあったので「店舗」ではなく「買い物機能をどうするか」というように検討を進めたほうがいい。買い物機能+交流機能として考えてはどうかと思う。

(会長)公民館のフリースペース的なところを交流機能のある場所として考えたいと思っている。この3つ(役場・公民館・買い物)の機能に絞って検討するということが良いか。

(委員)小さな拠点を新設した場合、他は撤去するという認識でよいか。

(事務局)耐震補強ができていないので、経費との比較になると思う。耐震補強しないまま施設を活用するかとなると難しく、撤去すると思われる。トータルで判断しなくてはいけないが、撤去して次の展開を考えなくてはいけない。まずはどういった拠点にするかを先に考えていただくことが望ましい。

(オガザバー)海の駅とまり構想もあるが、そちらとの連携は取れないか。

(事務局)連携を取るようにしている。今のところ新たに店舗を作るというところまで議論が広がっていない。

(会長)海の駅とまり協議会でも会長をしているが、今は各事業者をつなげるというところをやっている。もう少し具体的になるようにまた皆さんにご意見を頂きたい。

(オガザバー)移動手段については考えないのか。

(区長)とりあえず拠点をつくるということに集中して、移動手段については徐々に考えていけばよいと思う。

(区長)イメージするのは、拠点が泊地域のコミュニティセンターのような形で、行政機能や生涯学習センター機能などが入って、泊地域全体の人が集える機能をもった施設にしないと人が集まらない。若い人が来て拠点で話をしたり、高齢者が交流も出来たりする場も必要だし、店舗もあれば一番いい。一番集まりやすいのは、今の泊漁港の周辺だと思う。津波が心配だが。

(会長)どこかで線引きは必要。すべてを含めることはできない。進行方法も含めて事務局と一度検討する。

#### ■次回

2017年8月21日(月) 18:30～ 中央公民館泊分館2階大会議室